

広報

ただみ

1
2021 月号
No. 608
令和3年1月10日

今月の表紙

町内3保育所でもちつき誕生会が行われました。12月誕生日の児童をみんなでお祝いした後に、もちつきのお歌を歌い、由来をお勉強しました。お餅つきが始まるとみんなの大きな掛け声にあわせてさくら組の児童が力いっぱいお餅をつきました。児童は、「すごくおいしい」と笑顔でお餅を食べていました。

12月には他にもクリスマス会等が行われ、色々な冬の行事に触れた年末となりました。

(関連記事:P12)

《特集》

- 新年のご挨拶 2～3
- 雪まつりの歴史を振り返る 4～9
- 《News&flash》 10～11
- 《町の話》 12～13



ご挨拶

只見町の将来に向かって 行動するまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和3年の初春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私は、昨年十一月の町長選挙におきまして、町民の皆様方をはじめ、多くの方々から温かいご支援を賜り、当選の栄に浴し町政を担うこととなり、その職責の重さに身の引き締まる思いであります。皆様からお寄せいただいた信頼と期待に応えるべく、新たな決意と情熱を持って町政執行に取り組む覚悟であります。

さて本町は、人口減少による様々な分野での担い手不足や今後の産業経済活動の停滞・縮小の懸念が不安感になつていふと思えます。特に、高齢や様々な理由で日常生活の支援を必要とされている方々は、医療や介護の心配、日常生活上の不便さやそこから生まれる不安感などがあります。

加えて新型コロナウイルス感染症が、出口の見えない不安感を増幅させています。

本町においては、長年の悲願であった国道289号八十里越の開通やJR只見線の全線再開通を控えております。

国の働き方では、リモート環境整備やデジタル庁の創設など、遠隔地という不利な条件を緩和する環境も整つてまいります。

福島県におきましても次期総合計

画の策定を本年9月に延期し、デジタル化の推進の視点を盛り込む方針を固められました。

このような中、只見町の小学生はユネスコスクールの趣旨である持続可能な社会づくりを勉強しています。これは現状の困難さを嘆くのではなく、将来の只見町の望ましい姿を描き、その上で、今やらなければならぬことは何かを学び、しっかりと将来を見据えて学び、行動しています。

私は、大人であっても只見町の子どものための地域をより良くしたいという姿勢から学びたいと考えています。

さて、背景等を含め様々申し上げましたが、政策目標は、「只見町の将来に向かって行動するまちづくり」であります。

第1に、「みんなが住みたいと思う魅力的なまちづくり」であります。町内のすべての産業の魅力を伝えるために、産業振興策とともに積極的なトックセールスを展開していきます。「只見ユネスコエコパーク」につきましても、その魅力をさらに高め、広く発信すべく努めてまいります。

第2に、「誰もが安心して住めるまちづくり」であります。喫緊の課題となつております朝日診療所の診療体制を立て直すとともに、訪問看護と訪問介護の連携強化と充実を図ってまいります。

また、暮らしに関する総合相談窓口の設置をはじめ、日常生活の支援体制づくりに努めてまいります。

第3に、「関係人口（交流と定住の

中間）を増やすまちづくり」であります。只見町出身者や只見町を応援してくださる方々の声を、町づくりへ反映させるための提案、応援制度の創設とともに、町の総合案内機能と受け入れ態勢（物産販売等）の整備を急ぎます。

第4に、「子どもがたくましく育つ、子育てしやすいまちづくり」であります。子どもの健やかな成長を支援する事業を積極的に実施したいと考えております。

第5に、「みんなに役割があり、活躍の場があるまちづくり」であります。公共事業の確保に努めるとともに、高齢になつても年金収入に上乗せできる仕事の支援づくりを推進してまいります。

只見町が誕生し、六十一年が経ち、人間でいえば還暦を迎えました。改めて私たちの地元は、旧村の地区ではなく只見町であることを意識して、町民の皆様が活躍の場と役割がある町をつくってまいります。

そして、その先に只見町の持続的な発展があることを信じて、本職を懸命に努めてまいりますので、町民の皆様並びに議員各位におかれましては、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年の

住民が参画できる開かれた 議会を目指して

只見町議会議長 大塚 純一郎



明けましておめでとうございます。只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に深いご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、春に町議会議員選挙が行われ、現職七名、元職二名、新人三名からなる新しい議会構成となりました。私も議長の要職につきまして、初めての新年を迎えることになりましたが、その間、町民の皆様から寄せられました温かいご指導やご厚情によりまして、議員各位ともども議会活動に精励できましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は一年を通し新型コロナウイルス感染対策に終始した年でありました。一月の中国・武漢市で発生したウイルスは現在も世界中に感染拡大をしております。世界全体の感染者数は、実に「8,800万人」に迫り、死者数は「190万人」になろうとしております。国内での感染者数は「26万人」を突破し、死者数は「3,900人」を超えました。感染拡大は経済活動を大幅に縮小させ、個人消費の激減、企業の倒産、解雇、雇い止めを発生させる等、国民生活に大きな打

撃を与えております。

また、感染リスクによる不安や恐怖、隔離や行動制限によるストレス、感染者や濃厚接触者への誹謗中傷等が後を絶たない状況ですが、一人ひとりが感染拡大防止の為に取り組みを真剣に行わなければなりません。

近年、頻繁に発生する熱波や干ばつ、そして洪水等の異常気象や災害被害を考える時、産業活動によって排出される温室効果ガスによる地球温暖化との関連を否定することは出来ません。温室効果ガス排出量の削減目標達成の為に一層の取り組みが必要であります。

国内外で自然災害も頻発しており、甚大な被害と多くの人命が奪われております。今なお、多くの人々が厳しい状態での生活を余儀なくされており、迅速な復旧、復興と生活の安定を心から願うものであります。

景気は、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限等が影響し、内外需が落ち込み、大きなマイナス成長が予想されております。早期の景気の回復と安定を望むものであります。

さて、我が只見町は、人口減少、少子過疎高齢化に起因した様々な課題が山積しております。課題解決の為に独自の取り組みが求められています。行政は住民に最も身近な存在であり、その役割は大変重要であります。二元代表制の一翼を担う議会とし

ては、通年議会制度を活用し、これまでも行政を監視、牽制するとともに各般の提言を行うなど、その役割を果たして参りましたが、今後も「町民の皆様」との繋がりを大切にし、より皆様の声に耳を研ぎ澄まし、その声を施策に反映することが益々重要になってくると考えております。

今後更に、「住民が参画できる、開かれた議会」を推進するため、議会報告会や一般会議などを通じ情報の共有に努めて参ります。

平成二十六年に登録された世界に誇れる「ユネスコエコパークのまち」として、自然と人間の共生に向け、住民と行政が課題や目標を共有しながら今後の町づくりを進めていくことが最も重要と考えます。

議会と当局は、互いに切磋琢磨しながら町民の意思を尊重し、只見町の発展のために全力を尽くして参りますので、なお一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして実りある飛躍の年となりますことを祈念し、新年の挨拶といたします。

歴史ある雪まつりを振り返る

今年の雪まつりは残念ながら中止となりましたが、例年雪まつりのステージを盛り上げる伝統芸能や雪まつりのメインステージを彩る大雪像をご紹介します。ご家族やご友人と雪まつりの思い出ばなしをしながら、雪まつり気分を味わってください。

只見町の二大イベント

「只見ふるさとの雪まつり」

毎年2月第2土・日曜（前夜祭・金曜）で開催されている「只見ふるさとの雪まつり」は、町民一丸となって盛り上げる只

今年は…

「雪まつり中止」

苦渋の決断

雪まつり実行委員会は、今年の雪まつりの開催について各省庁から発表されている新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドラインと照らし合わせ、開催に向けて検討を進めました。

しかし、開催するためにクリアしなければならない課題も多く、また感染が拡大している状況を鑑み、町民や来場者の安心・安全を最優先とし、雪まつり史上初の中止という、苦渋の決断となりました。



見町の一大イベントで、町内外問わず多くの方が楽しみにしており、毎年2万人を超える来場者が訪れます。

福島県内では最も歴史と伝統のある雪まつりで、伝統芸能発表や音楽ライブ、お笑いショー等が行われ、両日とも最後に祈願花火が雪まつりを盛り上げます。

厄払いの儀

厄払いの儀は、数え42歳の厄年を迎えた男衆が神主より厄払いを受け「ハンダコ姿」の厄男衆が松明の灯りを手に会場内のかがり火を灯しながら入場します。厄男衆の体に触れた人はその年1年良いことがあるといわれています。



雪まつり開催のきっかけと

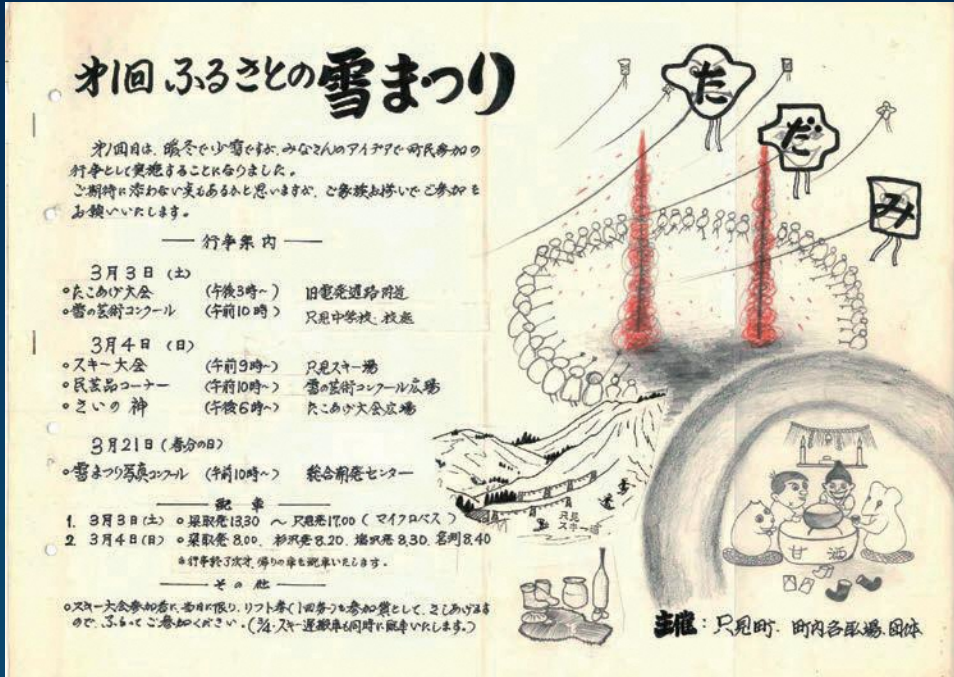
第1回雪まつり

雪まつり開催のきっかけ

当時の只見町の冬は、現在よりも積雪量が非常に多く、軒下まで雪に埋まるため、暗くさびしいというイメージがありました。そのイメージを変えたいと願う地元民から、「観光地として、豪雪地帯只見町の名に恥じない雪を活用したものを考えよう」と声があがり、計画されたのが始まりです。

催しや内容について、秋田県横手市や新潟県十日町市等の雪まつりを参考にしつつ、町民アンケートで意見を出してもらい、町民の皆さんが楽しめる雪まつりを目指しました。そして、昭和48年3月3、4日の2日間で第1回「ふるさとの雪まつり」が開催されました。

第1回の雪まつりでは、小・中・高校生や地元企業の皆さんが作



▲第1回ふるさとの雪まつりのチラシ。「さいの神」の様子や「かまくら」のイラストだけでなく文字も全て手書きで描かれています。



▲第2回ふるさとの雪まつりのチラシ。2月へ日程を移し開催されました。これ以降の雪まつりは2月開催で行われています。

り上げた雪像が立ち並ぶ雪の芸術コンクールが会場を彩りました。他にもたこあげ大会、民芸品販売が行われ、さいの神がフィナーレを飾りました。

町民総参加で作り上げるというコンセプトは今も受け継がれており、雪まつりが近くなると町内各地で雪像などが作成され、雪まつりを盛り上げます。

雪まつりを彩る歴代の大雪像

只見ふるさとの雪まつりといえば、目玉の1つとして挙げられるのが大雪像です。

第1回～3回は、地元企業や小・中・高校生によって雪像やかまくらが作られました。第4回からは、自衛隊の協力を受けながら大雪像が作成され、今では町内の建設会社や地元の大工、左官屋等の協力によって作成されています。

町民からのアイデアにより田子倉ダムや水久保城といった只見町に縁のある雪像から、竜宮城、ピラミッドなど、バラエティに富んだ様々な大雪像が只見ふるさとの雪まつりを盛り上げてきました。



▲第16回雪まつりは、ソウルオリンピック開催にちなんで「韓国光化門」が作成されました。



▲第41回雪まつりは、「八重の桜」主人公の夫が設立した「同志社大学」が会場を飾りました。

時代を写した大雪像



▲第43回雪まつりは、東京駅開業100周年に合わせて「東京駅」が大雪像に選ばれました。



▲第47回雪まつりの北海道赤れんが庁舎は、胆振東部地震復興応援をテーマに作成されました。

第1回	かまくらと雪の芸術展	第17回	凱旋門	第33回	スノーキャッスル
第2回	かまくらと雪の芸術展	第18回	アルハンブラ宮殿	第34回	只見大聖堂
第3回	かまくらと雪の芸術展	第19回	台湾 中正紀念堂	第35回	布施弁天
第4回	竜宮城	第20回	朝鮮凱旋	第36回	紫禁城
第5回	灯台	第21回	エジプトピラミッド	第37回	田子倉ダムと叶津番所
第6回	竜宮城	第22回	パレスチナの黄金ドーム	第38回	水久保城
第7回	田子倉ダム	第23回	顕仁門	第39回	タージマハル寺院
第8回	成法寺聖観音菩薩座像	第24回	タージマハル寺院	第40回	ノイシュバンシュタイン城
第9回	水久保城	第25回	沖縄首里城「久慶門」	第41回	同志社大学
第10回	”雪の殿堂”只見観光ホテル	第26回	アンコールワット	第42回	パリ オペラ座
第11回	只見国会議事堂	第27回	竜宮城	第43回	東京駅
第12回	只見城	第28回	守礼之門	第44回	サン・マルコ寺院
第13回	万里の長城	第29回	納沙布岬と北方領土	第45回	熊本城
第14回	インド敬寺院	第30回	塩野崎灯台	第46回	鶴ヶ城
第15回	天安門	第31回	田子倉ダム	第47回	北海道旧本庁舎「赤れんが庁舎」
第16回	韓国光化門	第32回	SL3重奏	第48回	東京駅丸ノ内中央口

貴重！郷土芸能発表

只見町では、各地に生活や信仰の中から生まれた郷土芸能が多く残されており、歴史の深さと文化の豊かさを垣間見ることが出来ます。雪まつりのステージでは、様々な郷土芸能が披露されます。中でも、「小林早乙女踊り」と「梁取太々神楽」は福島県の無形民俗文化財に登録されており、本来であれば決まった奉納日等に披露されるもののため、雪まつり会場で見られるというのは貴重なものです。

無形民俗文化財① 梁取太々神楽

だいたい



梁取太々神楽は、鹿島神社（南会津町）の20年毎に行われる遷宮の際に奉納される由緒ある獅子神楽で、160年以上の歴史があると言われています。直近では、平成26年9月のご遷宮の際に奉納されました。「四方固め」、「弊舞（へいまい）」、「鈴舞」、「狂い」と続く神事的色合いの強いものですが、最後にひよつとこが登場し、余興的な一面を見せます。現在は、梁取芸能保存会の皆さんによって、大切に受け継がれています。

無形民俗文化財② 小林早乙女踊り

昔、6月から9月の初め頃まで気温が低く、冷たい雨が降り続き大凶作となつた年があり、稲作を中心とした農業で生計を立てていた小林集落は生活もままならなくなつてしまいました。

そこで集落の人々はこのような凶作が2度と無いようにとの祈りを込め、作立祝いとして、その年の豊年満作と集落の家内安全を祈念して若連中が主として踊られたのが「小林早乙女踊り」といわれており、毎年旧正月14日の夜に踊られるようになりました。



早乙女とは「若い女性」のことを指しますが、明治の初めころ「女性が踊ると不作になる」という年があり、以来男性が女装して舞うようになったそうです。男性二人を若い女性に見立て踊り子とし、道化と晴れ着でうたにあわせて身振り手振り手真似面白く、稲の種おろしから田植えまで作付けを踊ります。

昭和35年9月に保存会が結成され、現在も伝統が受け継がれています。



雪まつりを盛り上げるイベントの数々



▲オープニングセレモニーでは、鏡開きや福もちまぎが行われます。



▲たくさんの郷土芸能が雪まつりを盛り上げます。左：会場に音色を轟かす天領只見仙嶽太鼓 右：ステージを華やかに彩る蒲生花輪踊り



▲雪まつりのフィナーレを飾るのは、祈願花火大会です。皆さんの願い事やお祝い事などのメッセージと共に冬の夜空に打ち上げます。



▼第8回の雪まつり。花火大会はこの頃から始められました。

◀会場内でも多くのイベントが行われています。(雪玉ストラックアウト)



▲地元の味や工芸品が楽しめるゆきんこ市は多くの人で賑わいます。



▲第19回から行われ続け、今では、目玉の一つ雪中大神輿。町民だけでなく、来場者も一緒に担いでいます。

来年こそは！
町民一丸となって第1回から作り上げられてきた雪まつりが、今では只見町の冬の一大イベントとなりました。
新型コロナウイルスの影響で今年は中止となってしまいましたが、受け継がれた歴史を繋いでいけるよう、来年こそは開催できるように改めて町民一丸となり、難局を乗り越えていきましよう。

過去にはこんなものがありました！



▲大雪像...ではなく、巨大スクリーンです。映画鑑賞会が行われました。鑑賞していた方は「寒かったけど面白かった」とのことです。

▼自宅へ電話がかけられるふるさと便り通話コーナーです。ご来場された方が、ご家族へ雪まつりの感想や近況報告するのに賑わいました。



菅家三雄町長が退任 渡部勇夫町長が初登庁



▲12月15日、拍手で送られる菅家町長



▲12月16日、初登庁で花束を手にする渡部町長(左)

使命感もって取り組んだ4年間
菅家町長退任

12月15日で任期満了を迎えた菅家三雄町長の退任式が行われました。退任式で職員を前にした菅家町長は、

1期4年間について、台風19号による被害や新型コロナウイルス感染症等について思いを振り返るとともに、大きな課題として取り組み続けてきた過疎・少子高齢化対策についても触れ、「災害や新型コロナウイルス等と課題は多くあるが、様々連携をしながら一つ一つ解決して、只見町を守ってほしい。」と退任の挨拶を述べました。その後、職員から花束の贈呈を受け、職員の手で見送られました。

菅家町長は平成28年から1期4年にわたり町政を担われました。

町史に新しいページ 渡部勇夫町長就任

12月16日、渡部勇夫町長が初登庁し、役場町下庁舎玄関前で職員の拍手で出迎えられ、花束の贈呈を受けました。

就任式で渡部町長は「等しく手を携えてより良いまちづくりとしていきたい。職員や議員も含めて只見町一丸となつて政策を進めていきたい。皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします」と挨拶をされ、「声を出したくても出せない方々の声を感じ取り政策に反映してほしい」と訓示を述べました。

その後、新旧町長による事務引継ぎが行われ、町長として新しい一歩を踏み出しました。

第7回海洋教育こどもサミット

全国へ取り組みや成果を発表

11月27日、東北各県で取り組まれている海洋教育の成果を児童・生徒が主体となり発表する「第7回海洋教育こどもサミット」がオンラインで開催され、朝日小学校6年生、只見中学校3年生が参加しました。

只見中学校は海洋プラごみ削減について、朝日小学校は災害対策について、それぞれ取り組み内容や成果報告をしました。発表後には、ディスカッションが行われ、課題の追及などがされました。

今後は、2月の町内での発表に向け、更に課題追及を深めていきます。



▲只見中3年生発表の様子



▲朝日小6年生発表の様子

教育委員に矢沢悟さんが就任

只見町教育委員会教育委員就任交付式

12月1日、只見町教育委員会教育委員の辞令交付式が役場町下庁舎で行われ、菅家町長から矢沢悟さん（塩沢）に辞令書が交付されました。

教育委員は町の教育振興のため、教育施策の提案や教育への意見などを教育行政へ反映させる役割を担っています。

矢沢さんの任期は、令和2年12月1日から令和6年11月30日までの4年間となっています。



▲辞令書を手にする矢沢悟さん(中)と渡部教育長(左)と菅家町長(右)

只見スキー場オープン式

待望の雪が降り準備万端

12月18日、只見スキー場オープン式が只見スキー場ロッジで行われ、関係者が出席しました。

渡部町長は、「只見スキー場は会津の中でも歴史のあるスキー場。子ども達が歓声をあげて遊べる場として支援をしていきたい」と挨拶されました。その後、大塚町議会長の音頭で乾杯が行われ、テープカットでオープンを祝いました。

只見スキー場は、索道事業（リフト運営等）無事故の表彰を受けており、「今シーズンも事故のないよう運営していきたい」とのことです。



▲表彰状を受け取った会津ただみ振興公社の渡部代表取締役

おつか漢字の里した協働開発の焼酎完成

八十里越道路開通を見通して

合同会社おつかと漢字の里したで協働開発をすすめていた米焼酎の蒸留が完了し、12月18日にリモート試飲会が行われ、おつかの脇坂さんと下田の農家6人が参加しました。

仕込みには、両市町の棚田米をブレンドしたものが使用されました。

春から「八十里越」の名前でねつかや漢字の里したで販売することが計画されており、ラベルのデザインなどの打合せが進められています。



▲試飲会の様子。下田の農家の皆さんは、「甘みが程よく飲み口が良い」「まろやかでおいしい」と完成を喜びました。

今年はドライブスルー！ 「朝日クリスマス会」を開催



▲50人の子供が来場し、ドライブスルー形式(車、徒歩)でプレゼントを受け取りました。

12月5日、朝日振興センターで毎年恒例となっている「朝日クリスマス会」が開催されました。

今年は密を避けるために、朝日振興センター入口でドライブスルー形式により、サンタさんからプレゼントが手渡されました。

例年のビンゴゲーム等は、開催することはできませんでしたが、サンタさんに会えた子どもたちには笑顔が溢れていました。

手打ちそばに挑戦 そば打ち講座が開催されました

12月6日、只見振興センターで只見町そば部会の酒井佑子さん(坂田)、酒井美智子さん(福井)、角田岑子さん(小林)、飯塚トシさん(大倉)を講師に、そば打ち講座が開かれました。

新型コロナ感染拡大防止のために、出来上がったそばは試食をせずに持ち帰りとなりましたが、初心者の方や子ども達もそば打ちのコツを教わりながら楽しく真剣に作る事が出来ました。



▲そば部会の方に打ち方を教わる参加者の方

サンタさんが来たよ！ 町内保育所クリスマス会

12月10日に只見、朝日保育所、11日に明和保育所でクリスマス会が行われ、児童による出し物やキャンドル点火等が行われました。

また、クリスマス会の最中にサンタクロースが大きな袋を持って登場し、児童ひとりひとりにプレゼントを手渡ししました。プレゼントを受け取った児童は、「ありがとうございます」と大きな声でお礼を言うことが出来ました。サンタクロースへの質問コーナーも設けられ、「どこから来ましたか」、「何色が好きですか」等、思い思いの質問をし、楽しい時間を過ごしました。



▲プレゼントをもらった児童は大きな声で「ありがとうございます」とお礼が出来ました。

いじめについて考える 人権教室が開催されました



▲熱心に話を聞く児童達

12月10日、只見町人権擁護委員の渡部等さん、角田行雄さん、鈴木美穂さんが只見小に来校し、4～6年生を対象に人権教室が開催されました。

児童達は人権についてのお話を聞いたりDVDを観たりした後に、人権やいじめ等について意見交換や感想の発表を行いました。

この教室を通して、いじめは人権を侵害すること、いじめを見たらすぐ誰かに知らせることなどを学びました。

頑張る只見高校生 高校生4人が受賞報告をしました

12月10日、県立只見高校の生徒4人が菅家町長に福島県内開催の各コンクール等で表彰されたことを報告しました。

読書体験記コンクール、家庭の日作文コンクールはそれぞれ1000点以上、福島県川柳賞は過去最多応募数679点の中からの受賞となり、多くの作品が参加した中での輝かしい結果となりました。

受賞内容は以下のとおりです。

- 三宅実美さん 全国高校生読書体験記コンクール 優秀賞
- 沼田彩希さん 家庭の日作文コンクール 優良賞
- 目黒京介さん 福島県川柳賞 青少年奨励賞
- 目黒楓華さん 福島県川柳賞 青少年奨励賞



▲受賞報告をした只見高校生(写真左から、伊藤校長先生、目黒京介さん、目黒楓華さん、菅家町長、三宅実美さん、沼田彩希さん、渡部教育長)

上手に書けました！ 「書初め教室」が行われました



▲指導を受けながら、集中して書く児童たち(明和振興センター)

12月24日、明和振興センターと朝日振興センターで「書初め教室」が行われ、町内の小学生が参加しました。講師は今年も目黒仁也さん、ふみ江さん夫妻が務められ、「福島県書きぞめ展」の課題である「冬の山里」や「うし年」などを毛筆で練習しました。また、1年生はフェルトペンで字の練習を行いました。

仁也さんは、「字には気持ちが現れます。落ち着いて集中して書くことが大事です。」と伝えられ、児童は一枚一枚丁寧に書いていました。

広報たのみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



「新年、あけましておめでとうございます。」

ふりかえれば昨年1年間もいろいろなことがありました。なんといっても新型コロナウイルスの流行があります。「人と会う」という行動に多くの制限がかかりました。多くの医療機関または高齢者施設で面会制限がなされ、大事な親族のそばにいられず、はがゆい思いをされた方もいるのではないのでしょうか？ 外食や忘年会・新年会などの宴席での楽しみも減ったり、2021年度の只見の雪まつりも中止になってしまいました。年末年始のご親族の帰省なども自主的に控えるなど影響があった方がいるかとおもいます。診療所に関しましては、2020年4月から朝日診療所の常勤医師が3名→2名に減員となりました。そのため、夜間(平日は20:00-9:00、休日は17:00-9:00)の診療対応をストップすることになり、町民の皆様にはご迷惑をおかけすることになってしまいました。

まだまだ大変な状況ではありますが、良いニュース

もあります。新型コロナウイルスに対するワクチン開発が急ピッチで進められ、欧米などでワクチン接種がはじまっています。日本でもいずれワクチンが受けられるようになると思います。朝日診療所では2020年度は診療所に2名の看護師が就職してくれました。二人とも非常に頑張ってくれており、大きな助けになっています。おかげで昨年末ごろから、診療所で対応可能な入院患者数も増やすことができました。

今年度はまだまだこれからです。奥会津は厳しい冬の大雪をじっと耐えて、次の春をまつ生活を続けてきました。朝日診療所としても、この大変な時期だからこそ、職員が一丸となって、地域医療の拠点として質の高い総合診療を提供し、地域社会の健康増進と安心に貢献するために頑張っていきます。今後とも町民のみなさまの応援・ご協力・ご指導よろしく願いいたします。

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊

vol.73 越智 めぐみ



「はじめまして、只見町」

みなさん、こんにちは。この度11月から地域おこし協力隊として着任し、心志塾で働いております越智めぐみです。

今までは広島県や兵庫県で、塾講師として文系科目を中心に指導してきました。大学時代のアルバイト経験を含めると、15年間塾に関わっています。

実は昨年働いていた塾が過疎地域にある教室で、少子化問題によって生徒数が集まらず、十分な収益が見込めないため閉鎖されることになりました。民間の教育事情はかなりシビアです。自分自身の力不足を大きく実感するとともに、このままでは都市部とそうでない地域との教育格差がどんどん大きくなるのではないかと危惧し、これまでの経験を活かしながら自分に何かできることはないかと考えたときに、公営塾の存在を知り、「これだ!」と思い地域おこし協力隊に応募いたしました。

初めて只見町に来たのは、11月からの着任が決ま

ってすぐ、10月の中旬。直前まで暮らしていた神戸から車で参りました。新潟県の小出インターから紅葉の始まっている山間部を走りながら、まるで日本昔ばなしのように、人の手がほとんど加えられていない自然に興味が止まらず、また、田子倉湖の絶景を見て感動したことは、未だに忘れられません。そして関わる方々の心の温かさや穏やかさを肌で感じ、一日で只見町が大好きになりました。

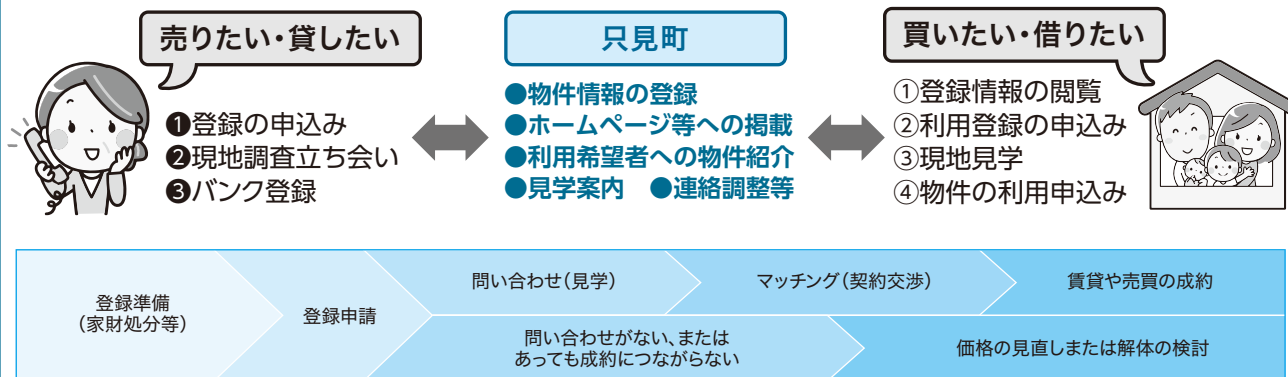
そんな大好きな町で自分の大好きな教育に関わることができるのは、大変幸せなことだと感じています。心志塾に来た皆さんや只見高校に通っている皆さんと一緒に、楽しく机に向かい、皆さんの将来が少しでも明るいものになるよう全力でサポートしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

シリーズ町の課題 vol.10 空き家バンク制度のQ&Aと現状



**Q: 空き家バンクって
どんな制度なの？**

A: 地方公共団体が空き家所有者や相続人から物件の登録希望を募り
空き家の利活用を希望する人に物件情報を提供する制度です。



**Q: 空き家バンク制度に登録する人や
活用を希望する人はどのくらいいるの？**

A: 今年度の空き家バンク制度への登録申請数は12件。
物件利用希望者の登録数は30件と、制度に関する問
い合わせと登録の件数は年々増加傾向にあります。

空き家バンク制度に関する問い合わせ件数(2020年12月現在)

内 容	問い合わせ	前年度比	登録申請	前年度比
バンク登録希望	32	213%	15	150%
物件利活用希望	74	370%	30	375%
計	106	583%	—	—

**Q: 古家等どんな物件でも
登録できるの？**

A: 建物の登記が済んでいることや小規模な修繕で居住が可能と判断
されること等の諸条件があります。
※詳細は地域創生課へお問い合わせください。

**Q: この制度に登録すると
町は何をしてくれるの？**

A: 町は所有者からの申請に基づいて物件情報を登録しホームページ
等で情報を発信、物件利用希望者に対する問い合わせ対応や情報
の提供および見学対応を行います。
※町では物件の契約交渉等に関する仲介行為は一切行いません。

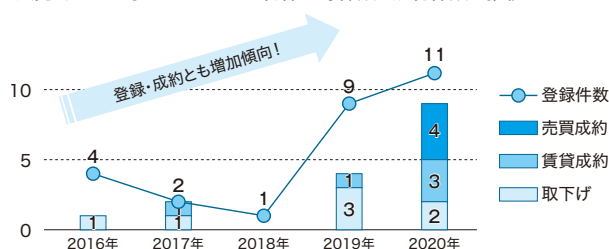
**Q: 空き家の維持管理も
してくれるの？**

A: いいえ。町が空き家の維持管理を行うことはありません。空き家の
管理は所有者や相続人の責務であり当事者が適切に行う必要が
あります。

**Q: 空き家バンクに登録すれば賃貸や
購入の希望者がすぐ見つかるの？**

A: 早期成約する物件の特徴は「定期的な手入れがな
され大きな修繕の必要がなく、家財が処分整理され
ていて価格が適正であること」が挙げられ、所有者の
努力が大切な要素となります。登録をしても長期間
希望者が現れない場合には解体を検討しましょう。

只見町の空き家・空き地バンク物件登録件数と成約件数の推移



次回は「空き家の維持管理を考える」について掲載します

空き家・空き地に関するご相談は、地域創生課 0241-82-5220 まで



町民文芸

只見短歌会

令和二年十一月詠草

大塚栄一

指導

離れ住む娘の帰り来て秋の日を我の届かぬ掃除なし行く

馬場 八智

高齢になれど畑作一心の義姉は押し車にて我にも野菜を

関谷登美子

病める身に楽しみなどはなければども孫らの電話に元氣をもらふ

渡部ゆき子

横断に戸惑ふ私の農具持ち誘導しくくるる工事場の人

目黒 富子

双子とふ玉子買ひ来て店員ら如でし玉子を笑ひつつ剥く

新国由紀子

降雪に間に合わせんと農具など片づけたるも日の入り早し

渡部ヨリ子

雨少なき夏も終わるか早ばやと赤とんぼの群れ窓を飛び交ふ

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

十二月定例会

宇多喜代子

指導

雪降り樟脳匂う待合室
何もせず日の短きや老の暮

一穂

風に濡れ横たわり咲く草の花
長き夜やなにげなく見る古時計

味代子

夕陽差す葱の重みはずっしりと
白菜の甘みを語る夕餉かな

修一

検診に向かふ車窓に冬の虹
あらがえぬ菜漬の石の重さかな

弘子

こむらひかがみ頼れる限り自然薯掘る
番鳥沈みつ浮きつ雪しまく

幸生

白菜に想いを託し鍋かこみ
孫の手にもみじ葉一つ笑い声

睦子

コロナ禍の師走の街を急ぐ人
身構えて古文書読むや冬日和

信

裸木となりて年輪あらたにし
先は先先ずは三年日記買う

恒夫

銀杏散る靴音踊る保育園
並べ行く所狭しと冬支度

都

祭祭と冬虹お社あたりかな
日めくりの一枚ごとの十二月

礼

九十も過ぎたる姉妹寄りし冬
始まりと終りも淋し除夜の鐘

洋子



只見町雪害対策本部が 設置されました

12月18日午前9時に「只見町雪害対策本部」が設置されました。

雪による事故や交通障害等の雪害で町民の皆さんの生活に支障がないよう予防や応急対策に取り組みます。

屋根からの落雪による事故防止の啓発や各区長との迅速な情報共有を図りますので、ご協力をお願いいたします。



看板を掲げる町民生活課長(左)と渡部勇夫町長(右)



あおと 渡部 蒼翔くん(蒲生)



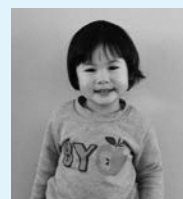
ななは 馬場 七羽さん(新屋敷)



たつき 酒井 竜起くん(館ノ川)



はると 河原田 陽翔くん(梁取)



一条 とあさん(二軒在家)



あやせ 吉津 綾世くん(長浜)



きょうしろう 山内 強司郎くん(二軒在家)



ひまり 川元 愛葵さん(蒲生)



ともひと 角田 智仁くん(小林)



ゆうか 徳永 悠花さん(梁取)

虫歯の ない子

12月22日
3歳児検診

町長スケジュール (12月分)

- | | |
|--|---|
| 1日 教育委員辞令交付式 | 18日 只見町建設業協会役員来庁、只見スキー場オープン式、就任挨拶回り(桧枝岐村) |
| 2日 国道289号線建設期成同盟会地方要望会(新潟市) | 21日 郡内町及び関係機関等就任挨拶回り(南会津郡内) |
| 3日 只見ふるさとの雪まつり実行委員会 | 22日 只見町議会12月会議(～25日)、朝日診療所医師との懇談会 |
| 4日 (株)季の郷湯ら里役員会 | 28日 仕事納めの式(あさひヶ丘、役場) |
| 15日 菅家町長退任式 | |
| 16日 渡部町長初登庁、就任式、議案検討庁議、町長事務引継、町内就任挨拶回り | |
| 17日 只見特産(株)代表取締役来庁、一般質問検討庁議、町内就任挨拶回り | |

町民の消息

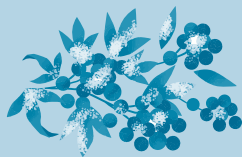
(11月26日～12月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

鈴木 和^{わか}玖 (男/ 徹・利沙) 只見

■おくやみ申し上げます

酒井 節子	86歳	籠ノ川
五十嵐 勝明	56歳	只見
吉津 チカ工	90歳	黒谷
目黒 ス工	94歳	只見
高橋 ヤエコ	100歳	長浜



※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和2年12月1日現在

人口 4, 058 (+2)
 男 1, 988 (+3)
 女 2, 070 (-1)
 世帯数 1, 739 (+4)
 高齢化率 46.6%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 8 転出 5 出生 5 死亡 4

あとがき

▽あけましておめでとうございます。本年も「広報ただみ」をよろしくお願いいたします。広報担当の新年の抱負は、「読みやすく興味を持てる広報紙をつくる」です。頑張ります。

▽今回、雪まつり開催のきっかけ紹介や過去の様子の写真を掲載させていただきました(僅かですが…)。今年も中止となってしまうかもしれませんが、写真を見ながら雪まつりの思い出話を花を咲かせていただければ幸いです。

(小林)

朝日振興センター
おすすめ新着図書1月

朝日振興センター図書室
☎24-2111
山内希美子

おすすめ新着図書

★Aではない君と



薬丸岳/著(講談社文庫)

あの晩、あの電話に出ていたら。同級生の殺人容疑で十四歳の息子・翼が逮捕された。親や弁護士の問いに口を閉ざす翼は事件の直前、父親に電話をかけていた。真相は語られないまま、親子は少年審判の日を迎えるが…。少年犯罪に向き合ってきた著者の一つの到達点にして真摯な眼差しが胸を打つ第37回吉川文学新人賞受賞作品。

★欲が出ました



ヨシタケシンスケ/著(新潮社)

大人も子どもも、欲の出やすいすべての人へー絵本作家ヨシタケシンスケの、「深かったり浅かったりする」スケッチ解説エッセイ。欲をまっとう、よくできました! しいていうなら、暮らしの知恵に! 人気絵本作家の、大好評イラストエッセイ集、第二弾!

★朝日振興センターではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



イヌワシ (学名: *Aquila chrysaetos*)

(写真・文 太田祥作)

[タカ目タカ科]



▲成鳥雄／2020年8月、町内撮影。山地の斜面上空を旋回した後、滑翔して稜線の先に消えた

▲若鳥／2020年9月、町内撮影。翼や尾羽の白斑は、幼鳥から生後5年目の若鳥まで見られる特徴

イヌワシは北半球に広く分布する大型の猛禽類で、日本では北海道から九州の山岳地帯に留鳥として分布しています。

1つがいの行動圏は平均で約60km、広いものでは250kmにまで及び、警戒心も強いいため観察は容易ではありません。繁殖活動は晩秋から本格化し、急峻な岩棚に営巣します。厳冬期の2月頃に産卵し、抱卵は雌が行い、約40日～45日後に2羽の雛が孵ります。しかし、兄弟間の闘争により通常1羽しか巣立ちません。雛が一定の大きさになるまで主に雌が抱雛し、狩りを担う雄はノウサギやヤマドリ、ヘビ類等の餌を巣へ運び込みます。雛の巣立ちは概ね6月上旬頃で、しばらく親子3羽で家族期を過ごした後、秋には親鳥に追い出される形で雛が独立します。

現在日本のイヌワシの生息数は約500羽、つがい数は約200と極めて少ないことに加え、近年は繁殖成功率が落ち込んでおり、絶滅の危険が増大しています。その主な要因として、イヌワシが狩場として利用していた採草地や牧草地、夏緑広葉樹林のような開放地が、戦後の拡大造林を経て鬱閉した人工林に置き換わったことで、狩場が少なくなり餌不足に陥っていることなどが考えられています。最新の環境省レッドリストでは絶滅危惧IB類、ふくしまレッドリストでは野生下で最も危険度の大きい絶滅危惧IA類に選定されています。

只見町では1992年に初めて雛の巣立ちが確認されました。これは福島県における最初の繁殖成功例とされます。只見町の山岳部に多い雪食地形や露岩地帯、ブナを主体とした夏緑広葉樹林帯は、イヌワシの生息に必要な狩場や営巣環境を提供していると考えられ、この町における原生的な自然環境を指標する種であると捉えることができます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。
企画展アーカイブ「只見の天然資源とその利用～冬の暮らしと手仕事編～」
会期：2020年12月19日(土)～2021年3月29日(月)
場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー